



マリアン

第27号

発行
ノートルダム女子大学
同窓会
平成9年4月20日発行
マリアンハウス
京・左京区岩倉幡枝町628
☎/☎ (075) 701-9149

行く春 来る春



会長 家村悦子
(4E 上登野)

新しい春がめぐってきました。いかがお過ごしでいらつしやいますか。皆様におかれましても、また同窓会にとりましても幸多い年となりますようにお祈りいたします。

昨年十月、同窓会名誉顧問としてご指導いただきました水越治学長がご退任されました。同窓会を快く受け入れて下さり、親身になってご指導下さいましたことを心からお礼申し上げます。十一月一日、本多正昭先生が新学長としてご就任になり、新たにご指導いただくことになりま

した。本多学長は、たゆまぬ対話をとおしてノートルダムの秘めた大きな可能性を実現したいとおっしゃっています。母校のますますの発展を願いつつ、同窓会も共に歩んで行けたらと存じます。

同窓会は、今春、三十三期生三〇五名を新会員としてお迎えいたしました。八千名近い会員は日本各地のみならず、世界に広くお住まいですが、昨年の同窓会総会には、スイスからもご出席下さいました。嬉しいことです。

一人でも多くの会員に積極的に参加していただくために、また総会をより楽しく、意義ある会とするためにどのようなにしたらいいのか、学年委員会並びに役員会で検討してきました。その結果、卒業後、二十年、三十年……の節目を迎えられた会員の方々を出席者全員でお祝いをする事になりました。本年五月十八日の総会には、お祝いを受けられる方、お祝いをされる方どなたも、一つの節目を作るために是非ご出席下さい。

昨春、「マリアン」発行後、お送りしました情報に対し大勢の方から敏速な反応をいただきました。ありがとうございます。米国の高校での日本語講師募集には九名の応募者がありました。昨

年九月より、二十五期生の柴原みゆきさんが米国で教えていらつしやいます。また、現在同窓会クラスとして六クラス開講しておりますが、他に「日本文化研究クラスを……」との会員の方からのご要望をお知らせしましたところ、興味を持たれた会員が集われ、自主的に究めていくグループとして誕生しました。

京都を離れて遠くにお住まいの会員の方からも同窓会に対してご親切なご助言、ご提案をいただきました。ご支援下さった皆様に深くお礼を申し上げます。『ノートルダム』の灯火が温かく、広くともり続けますように、そして更なる同窓会の発展を祈念しつつ、来る総会をもって会長を退かせていただきます。

大変ありがとうございました。

♡ 祝御入会 ♡

本年度は、英語英文科二二名、生活文化学科八十三名が三月十三日にご卒業になりました。同時に第三十三期の同窓会員となりました。ご入会を心より歓迎いたします。

祝周年記念

十五周年	十八期生
二十周年	十三期生
二十五周年	八期生
三十周年	三期生

ノートルダム女子大学

同窓会の皆様へ



名誉顧問
学長 本多正昭

同窓会広報委員の方から、会報マリアンへの執筆のご依頼をいただいて、光栄に思っております。私は去る十一月一日、終のすみかと思いい定めていた北九州から、思いがけない不思議な摂理に導かれて、年度途中にバタバタと緊急赴任いたしました。当初は全く戸惑いの多い毎日でした。しかしそんな中でも、ある一点に、隠れて燃える炎のようなものを、早くから感じ取っていました。それは、「ノートルダムの悲願」とでも言うべきものでした。この悲願は決してシスター方だけではなく、同窓会の皆さんから受けた、とても新鮮な印象でした。皆さんの心の中に、自分たちが教育を受けた母校に対する感謝と誇りの念が脈々と生きていて、その炎が絶対に消えないように、「学長さん、よろしく願いますよ」と訴えておられるような、ひたむきなまなざし。私がそのようなま

なざしに接して感じたのは、安心感と責任感でした。

申し上げるまでもなく、時代は社会環境・家庭環境とも急速に変化して、若者の意識も、決して以前と同じではありません。激動する時代にもまれながら歩む大学が、その底流にどのような「時のしるし」を読み取ることが出来るか。現代の若者達が、本当に渴き求めているものを、どのように洞察し共感できるか。すべての教育者が、親も教師も、いまこのような問いに直面しています。

近代社会は、科学技術中心の文明社会で、すべての価値が、科学技術やこれと深く結びついている経済価値の物差しだけで測られがちです。しかし人間にとって手段的価値であるものが、唯一の目的価値のようにみなされ、他のすべての価値が付随的なものとして蔑視されていくとすれば、それはまさに社会的ガン症状と言わざるを得ません。「死に至る病」、近代の「文明砂漠」、これをどう克服したらいいのでしょうか。

毎日、神のまえに一人佇んで、静かに自己をみつめ、二度とない自分の生きて行く道を見定めることが、本当に必要な時代だと思います。社会改革の炎も、そこからしか出て来ないのではないのでしょうか。ある同窓生の方が、ユニソン会館に外部の方も自由に出入りできる聖堂がほしいと言われました。まことに嬉しい提案でした。たしかに聖堂こそは、ノートルダムのシンボル・ゾーンです。静かに神との出会いを再確認して真の自己への気づきを深め得る場所、これこそ何よりも必要です。現代人は、健康信仰に陥っていると言われる

ますが、英語の health は whole や wholesome また holy と語根を共有しているそうです。そうすると真の健康は、決して肉体だけのものではなく、全体的視点に立った聖なる生き方だということになります。言葉の意味まで細分化断片化していく近代化の過程の中で、現代人はこのような源泉を見失いつつあるのではないのでしょうか。人格的存在の全体性回復センターこそ、聖堂でありましょう。

これから、カトリック的建学の精神を具体的に力強く展開してゆくために、どうぞよろしくご提言やご協力をお願い致します。

略 歴

本多正昭 (昭和4年4月2日生)

- 昭和32年3月 九州大学大学院文学研究科修士過程、哲学・哲学史専攻卒
- 昭和33年7月 香港・聖ドミニコ会哲学院及びマニラ・教
- 昭和36年6月 皇庁立聖トマス大学にて、中世哲学研究
- 昭和37年9月 熊本市・私立マリスト学園高校教諭
- 昭和42年3月 (4年半)
- 昭和42年4月 神戸海星女子学院短大講師、助教授、同文
- 昭和53年3月 学部教授 (11年)
- 昭和53年4月 北九州市・産業医科大学医学部教授 (14年)
- 平成4年3月
- 平成4年4月 産業医科大学名誉教授
- 平成4年4月 彦根市・聖泉短期大学学長 (2年3ヶ月)
- 平成6年6月 退職
- 平成8年11月 京都市・ノートルダム女子大学学長
ノートルダム女子大学同窓会名誉顧問

第三十二回同窓会総会への

おさそい

日時 五月十八日(日)

午前十時半受付 午後二時半まで

午前十一時総会開始

場所 都ホテル「葵殿」 東山三条けあげ

TEL 〇七五―七七―七一一

会費 大人七千円 子供千五百円

(ベビーシッター有)

都ホテル行きシャトルバス

毎時 〇分、三十分

〈京都駅八条口、新都ホテル前発車〉

今年度の総会では、ニューヨーク出身のフォトジャーナリストであるメイソン・フロレンスさんをお迎えしてお話と東南アジア諸国のスライドで私達に美しい世界を紹介して頂きます。

同氏は一九九〇年にコロラド大学を卒業して間もなく来日され、京都を基点に国内外に於いて活躍されています。(また、現在は旅行案内誌Lonely Planetの日本編の著作活動もされています。)同氏は今迄に五十以上もの国々を旅し、大々の国の人々とグッド・シャッター・チャンスを求め、多くのドキュメントを作っておられます。同氏の豊かな体験を通じた英語でのスピーチ(通訳付)は、私達を、大きな希望と夢を抱いていたノートルダム女子大生のある頃にタイム・トリップさせてくれるに違いありません。皆さん、このシャッター・チャンスを見逃さないで下さい!! 担当 十六期生一同

第三十二回総会報告

副会長 下水木淑子

(9C森橋)

平成八年五月二十六日(日)午前十一時より午後二時三十分まで、都ホテルにて同窓会総会が開催されました。十六人のシスター、先生方をお迎えして、同窓生九十四人が集いました。委任状は、一五五九通いただきました。

総会の初めに、この一年間に帰天された同窓会関係者とそのご家族に黙禱を捧げたあと、会長挨拶に続いて事業報告、会計報告、マリアンハウス管理運営委員会・手芸ボランティア・関東・中部支部の活動報告が行なわれ、その後新年度予算案の承認をいただきました。最後に名誉顧問・水越治学長、顧問・シスターセリーンのご挨拶をいただき、皆様のご協力のもとに無事総会を終えました。手芸ボランティアサークルによる売上げ、本部の大学祭参加バザーおよび中部支部総会バザーの売上げの合計二十七万二千円を、「インドへ友愛の手を」と「ネパール・サポート」に折半し、Sr. ジーン・シュミッドに贈呈しました。総会後の懇親会では、会食のあと十五期生の企画による「お気楽ホーンズ」のブラスアンサンブルを楽しみました。手芸ボランティアサークルのバザーも例年通り好評で、恒例のミキモトのプレゼントの当たる福引きも皆様に喜んでいただき、盛会のうちに終わりました。

役員一同、心より感謝申し上げます。

本部役員の改選について

左記の役員は任期満了にともない今年度をもって退くことになりました。

副会長 下水木淑子(9C森橋)
会 計 田邊 清美(12E石井)
庶 務 西村 寛子(11E大鳥良子)
中田由利子(13E小谷)

新役員候補者は次のとおりです。
総会において承認されますので、欠席の方は委任状をお願いします。

会 長 高木 里美(3E小坪)
副会長 白井 君子(1E高田)
会 計 小笹 依子(6C島津)
岩本万知子(8E後藤)
会計監査 今井喜代子(3E福富)
書 記 久萬田澄子(1E沢田)
松本美佐代(3E鳥原)
庶 務 荒瀬 忠子(4E藤野)
稲葉 芳子(4E井口)
柿谷 初子(6C赤井)
米田村幸子(6E北村)
マリアンハウス運営委員
中島 克子(1E長谷川)

爽やかな笑顔を



顧問 Sr.セリン松本

マリアン・ハウスへの途上、タクシーの運転手さんが「クリスチャンはみんな爽やかですね」と話かけられました。咄嗟のことで驚いたのですが、そういう彼こそ爽やかで、「運転手をしていると、いろんな方に出会い勉強になります」と言われました。たった一度の寸時の出会いでも人には一挙一動をみられているのだと、はっとさせられました。

出合いの時の笑顔の大切なこと。笑顔をするのは一番容易しくて、一番難しいことです。誰もが必要としている笑顔なのに、つい怠って忘れていくことが屢々です。知らない人と、時々会う人などには、にっこり微笑むことは案外たやすいですが、毎日顔を合わせている近い人には、特に心ざわしい時、心の余裕のない時など、笑顔はどこに行ってしまうのでしょうか。私たちが毎日家族のみんなに互いの爽やかな笑顔を交わすことができれば、平和の輪が家族から広がるに違いありません。

そんな爽やかな笑顔を私は最近よく卒業生に見かけます。結婚後十年、二十年そして三十年近くを経た方たちは、人生の色々な段階で学生時代には経験しなかった辛酸をなめながら、それでも献

身的に忍耐強く健気に毎日を送っておられます。子育て、家族の世話、受験生を持つ悩み、子供の巣立ちの寂しさ、年老いた親の介護、気難しい姑や舅の世話、自分の病気との闘いなど、きつと苦しく、辛い毎日に違いないのに、その状況を淡々と話して下さいます。私はその方たちの中に秘められた内的な力、人生をありのままに受け止めながら、前向きに分を果たしておられる姿をみます。学生時代に教えられたわけでもないのに知らず知らずに自然に身についた委託心、物事の受け止め方が、血となり肉となって生きているのです。それは爽やかなノートルダム・スピリットとでも言ったらよいのでしょうか。

ノートルダムの創立者マザーテレジアは強い意志の持ち主で、まわりの必要に敏感に応え、神が望まれることは何でも実行し、どんな苦しみにも耐え抜いた人でした。卒業生のみなさんはマザーテレジアのことをあまりご存じないかもしれませんが、マザーは苦しみを通してのみ得られる真の喜びや平安があることを信じて、何事にも勇気を持って挑戦された方でした。時々、いや屢々、自分への要求は何故こんなに大き過ぎるのかと思われることがあるかもしれません。しかし、毎日を神様に奉仕するつもりで献身的に爽やかな笑顔で生きていくこと自体が、創立者の精神にあやかることになっているのだと思います。マザーは「神への奉仕に忠実を尽くすようにと望みます。そうすれば、私たちには恵み、平和、救い、祝福がもたされるでしょう」(書簡 九四九)と仰っているのですから。

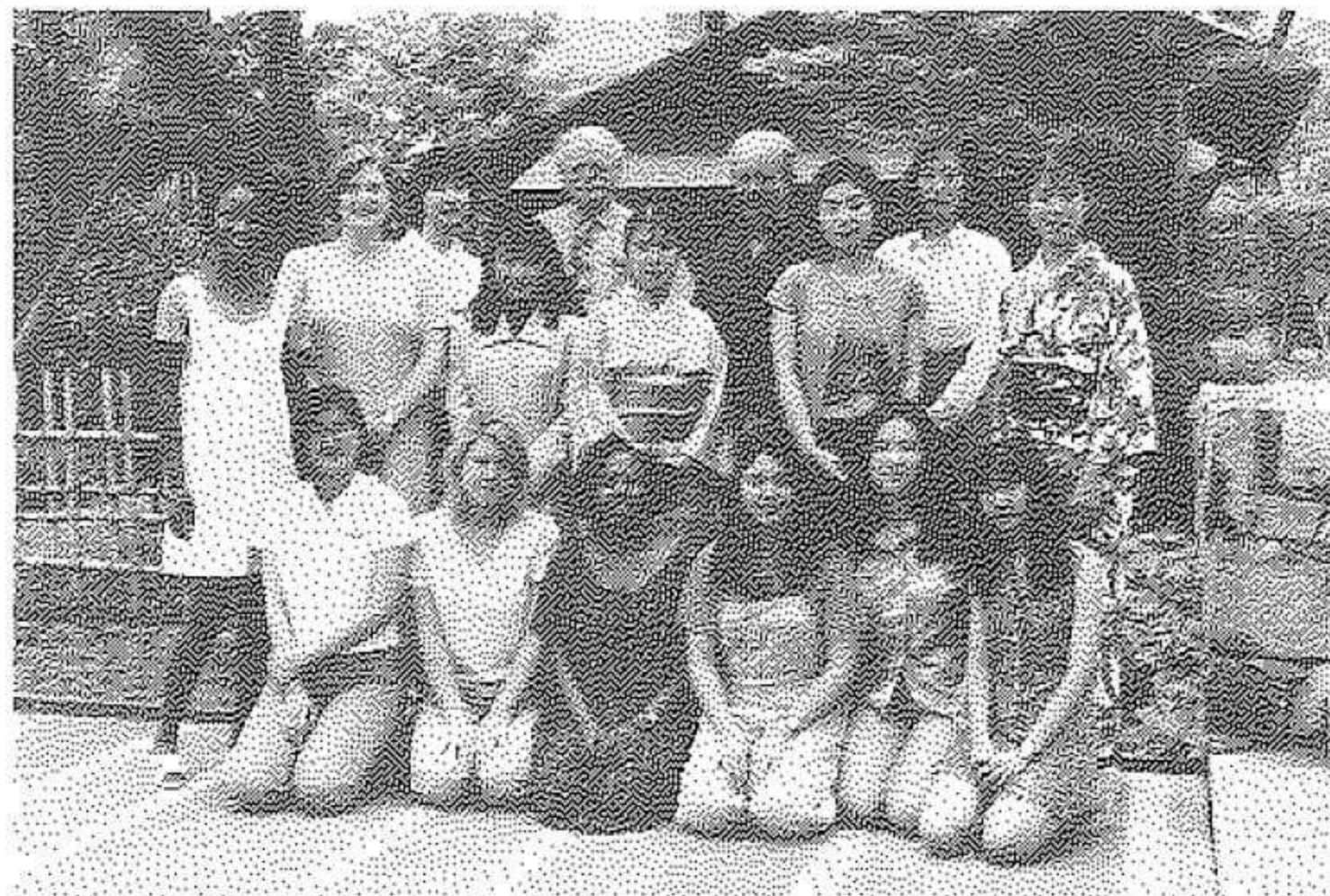
国際交流の現状

Sr.セリン松本

ノートルダム女子大学では二年前から「特定目的海外研修科目」が設けられ、四種の英語海外研修を学生に提供しています。即ち、夏季に実施するアメリカ、イギリス(スコットランドを含む)、カナダでの英語研修、春季に実施するオーストラリアでの英語研修です。毎年この四つの文化圏からそれぞれの研修大学を決めて、二単位の科目として開講し、学生は約三週間現地での英語学習と、文化体験をします。また、美術、服飾文化、食文化、住文化に関する四種の夏季海外研修も設けられ、同じく二単位の科目として隔年毎に開講されます。すでに美術、服飾文化に関してヨーロッパ(フランス、イタリア)での研修が実施されました。このように立ち上げ後三年目に、地球の広範囲にわたる場で八種類もの多様な海外研修が授業科目に組み込まれるようになりました。

従来から実施していた三姉妹大学(メリーランド・ノートルダム大学(バルティモア)・レジス大学(ウエストン)・マウントメリー大学(ミルウォーキー))への一年間の留学に加えて、毎年約百余名の学生が「特定目的海外研修科目」に受講し、それぞれ長期または短期の研修に出かけます。留学は学生の関心をますます高め、参加する学生にとって視野を広げ、異文化体験をするよい機会となっています。

また、外国人留学生を受け入れる科目として、四単位の「日本語・日本文化論」が、授業科目と



して学則に組み入れられました。平成八年度はじめて、アメリカの姉妹大学の学生を対象に開講しました。三姉妹大学から七名が四週間、大学の寄宿舎に起居し、午前中は主として日本語学習、午後は社寺見学、能、茶道、華道、書道、香道を学び、また、陶器作りなどをして盛りたくさんの日本の伝統文化を体験しました。留学生は四週間目の送別会の席上で、日本語のスピーチが出来るほどの上達ぶりを見せて私たちを喜ばせて下さいました。週末には卒業生の家庭にホームステイをし、ノートルダムならではの家庭的な国際交流の機会を味わうことも出来ました。

この「日本語・日本文化論」の科目は隔年毎に開講され、現在、平成十年度の開講を目指してプログラムを作り始めています。今回は同窓会のボ

ランティアグループや、新設の日本文化研究グループなどの協力を得て、またひと味違う内容に充実させていきたいと思っています。興味のある方、ご協力下さる方は国際交流ボランティアに登録して下さい。

同窓会と国際交流

5月26日から4週間にわたって行なわれたアメリカ姉妹大学との国際教育交流協定に基づく「日本語、日本文化論」を履修する留学生受け入れに参加し、各週末同窓生宅にホームステイした7人の留学生の方々に対し、同窓会としての今後のホームステイをより良いものとするために、アンケートをとらせていただきました。

同窓生の御家族と楽しく充実した週末を過ごされた留学生の方々の“生の声”をお届けします！

The Alumnae Association of Notre Dame Women's College is pleased to have invited you to stay with some of our members' families on weekends.

Q1 Which would you prefer to stay with one family three times, or with a different family each time? Why?

★ One family three times 1名

It's easier to develop a close relationship with one family. It's more comfortable.

★ A different family each time 3名

It's exciting to see various styles of Japanese family.

★ Not mind any style 2名

Q2 Please give some examples of happy times and unhappy times at your host family.

<Happy Times>

★ All I have experienced are happy times at home stays.

Ex. • Cooking dinners with families.

• Playing with children

• Talking to the families about the difference between Japan and America.

• Experiencing being able to put on Kimono.

• Going shopping to department stores.

★ I was very happy all the time with my host families. They really made me feel like one of their family members. I was happy when my host mother treated me as her real daughter and did things together.

<Unhappy Times>

★ Sometimes when they treat me too good, I feel very uncomfortable.

I can't do anything. I think they feel like it is their job.

★ Saying goodbye.

Q3 What was the most impressive cultural difference between your country and Japan?

★ It's amazing that Japanese are enriched as well as blessed with many cultural heritage traditions. On the other hand, American culture is constantly adapting and changing to the influx of people.

Ex. • The gestures and body language.

• The Japanese bath.

• The Japanese willingness to offer you something to eat or drink and help you to feel welcomed at all times.

• Collectivism, Politeness, Conservativeness.

• Japanese hospitality.

• Silence being a barrier to attain privacy.

• The whole idea about the importance of nonverbals regardless of ambience.

★ the cost of living : Everything is more expensive in Japan.

★ Children are more dependent on their parents.

Q4 Please write a message to your host families.

★ My host family is so wonderful. They were very patient with me. I learned so much about Japanese living from them. I think we learned a lot from each other. I am so lucky to be able to stay with them. I will miss them very much and I hope I don't cry too much when I have to say goodbye. I want to keep in touch and maybe come back to visit someday.

★ Thank you for making me feel welcome to Japan. You truly made my stay here more comfortable because of your caring and warming welcome.

Thank you for opening your house to me. You made my love for Japan stronger and I will always remember that.

Thank you for letting me be a big a part of the family. I loved every moment of the weekend.

★ Thank you very much for your hospitality I really appreciated your caring and effort to make me feel at home. I don't think that I can't thank you enough for what you have done for me. Thank you very much for everything. I had a great time with you guys. I hope to see you again in the future. I'm going to miss you guys very much. Please take good care of yourself. Thanks for everything.

★ Thank you very much for your hospitality. You have made my experience an enjoyable & memorable one. Wish you the best and hope to see you again in the future. Domo Arigato Gozaimashita /

★ I am ever grateful for your kindness and generosity. I would like to extend my gratitude and thanks for my most cultural enriching homestay weekends in your homes. I will never forget you nor will I forget being here in Kyoto. My stay in your homes has added to the many unforgettable and cherrished memories of studying in Japan. Dōmo Arigatō Gozaimasu.

★ Thank you so much for your kindness and generosity. I really enjoyed my stay in your home. You made me feel very welcomed.

★ Thank you very much for everything. I really have a good time.

ホストファミリーからのメッセージ

★ 留学生が少しでも日本のことを理解し、私たちも米国そして彼女の故郷である中国をも理解し合えばいいなあと思いながらの3日間でした。とても素直なかわいらしい彼女との出会いに感謝いたしております。また機会があればぜひホストファミリーとして活動させてください。

★ ……とても良い出会いでした。思いきってホームステイを受けてよかったと思いました。色々お世話下さった同窓会の役員の皆さま、ありがとうございました。

ホームステイに御協力いただいた同窓生の方々に心から感謝いたします。留学生の方々の言葉にあるようにすばらしいホストを務めて下さった皆様を同窓会としてほこらしく思います。

今後共、一人でも多くの同窓生の国際交流への御協力をお願いいたします。

N D 大学をはなれて

前学長 水越 治

大部分の同窓会の皆様方には、ご挨拶が出来ませんでした。小生、昨年の十月末を持ってノートルダム女子大学学長を辞職致しました。昨年夏、病院にて健康チェック中、たまたま極めて初期の胃ガンが見つかりました。どうでもよい年齢ではありますが、医学的にみて、極めて早期の発見で、手術的切除をすれば、確実に治癒するとあれば、切腹せざるをえない判断となりました。胃を切除すれば、食事情がかなり影響を受け、相当の体力的影響を伴うことは当然で、頻繁に文部省などに出向かねばならぬ学長職にとどまることは、大学にご迷惑をかけることになり、またもし大学院の準備を進めるのであれば三月末の任期は適当ではないとの判断も持ち、適切な方との交代をお願いした次第です。四年の任期を数ヶ月残して辞職はまことに申し訳ないこととお詫びする次第です。三年半余りの在職中、本学同窓会の皆様方には、心のこもった、また具体的なご支援を賜りましたことを厚く御礼申し上げます。

この年になって、初めての自宅療養生活に努めており、次第に体力も回復しておりますが、年齢的にもあり、公的生活から身を引くべき時期にきていたことを感じております。自宅におりますと、いろいろの方から病氣に関するご相談を受け、面倒を見る機会が重なり、もとの医学と医療に戻らされつつあるようにも思います。それとともに大学との距離が次第に離れていく様な感じにもなり、一抹の寂しさと、どうしているのかの心配が重なり、複雑な心境です。

医療に立ち戻ってみると、ときどき昔の自分と変わっている自分自身に気がつきます。医学の第一線を離れたこの数年の間にも、医学界は、恐ろしく進歩し変貌しております。先端的な自然科学に位置せざるをえない医学においても、科学の進歩の当然の成りゆきとして、専門細分化の波は避けられず、それに伴った矛盾が露呈しているのも現状の新たな問題点の一つです。四年間近く人文系の大学に浸って、様々な方と接触したためか、人間である患者さんとの対応の基本姿勢が相当変わった自分に気がつきます。ノートルダムにはそのような人の感性を変化せしめる潜在的な力があるのでしょうか。すばらしい大学です。

私にとって、大学が次第に遠くなりつつあり、心配な面も消えませんが、新しい、哲学者でもある立派な本多学長にすべてをおまかせすればよいと一方では安心しております。

毎年、同窓会通信の原稿のご依頼を受ける頃は、入学試験の問題をかかえる頃です。十八歳人口の減少のこの時代に、今年の入試合格者の歩留まり率は如何なものなのかなどを案じる昨今ですが、大学の皆さん方や、OGの皆さん方が、目の前の流れに流されることなく、大学の将来に視点をあわせ、ご努力されることを祈ってやみません。

お懐かしい卒業生の皆様

お元気ですか。このたびは中国山東省の曲阜から皆様にお便りしております。曲阜は古い小さな町ですが孔子誕生の地として有名なところですよ。

私がND女子大学に在職中、曲阜師範大学から数名の先生方が二回ほど親善訪問されそれがご縁となって一年間客員教授として同大学に招聘していただくことになりました。昨年九月にまいりましたので今年七月までということになります。

当地では当然のことながら孔子が大変尊敬されており、大学の正門を入ると前方に孔子の大きな銅像が立っているのが見えます。曲阜師範大学は学生数約七千名の総合大学です。中国では大学は、学生・教職員・教職員の家族に宿舍を提供する義務があり、この人々が全員キャンパスに住んでいるので、人口は約一万人を数えるとのことですよ。

キャンパスでの主な乗物は自転車です。またたえずどこかで建築や修繕の工事があり、大半は手作業でなされています。清掃や工事のための運搬車や三輪車風のリヤカーもあります。馬が荷車を引く姿も頻繁に見られ、はじめの頃は非常に驚きました。

私は一年生の日本語専攻の学生たちに週八時間、日本語と日本についての一般的なことを教えております。彼らの生活は貧しく勉学の環境も恵まれていませんが、純情、明朗、勉学にも熱心で頭が下がります。一緒に笑うことも度々あったのしいです。外で出会うと「先生！」といって近づいて来て修得した日本語で一生懸命に話しかけます。とても可愛いですよ。あと半年ですが、学生たちの実力向上のため少しでも約に立てれば幸せと念じております。皆様もそれぞれの場にあつてNDの精神をいかしながらお励み下さい。皆様の上に神の豊かな祝福がありますようにお祈りしております。

Sr. マイクル田代

同窓会活動諸報告

◎マリアン・スカラシップ

平成八年度のマリアン・スカラシップ貸与者は二名と決定しましたので、ご報告申し上げます。

◎大学祭バザー

秋晴れに恵まれた平成八年十一月三日午前十時より、恒例となりました女子大大学祭にてバザーを開催致しました。今回も、大学正門横にテントをお借り致しました。

収益金は、手芸ボランティアグループと合わせて、総会にて「インドへ友愛の手を」と「ネパール・サポート」に折半し、寄附させていただきまます。これも皆様方のご協力の賜物と深く感謝しております。今年のバザーも同様に、多くの方々からのご寄贈をよろしくお願い致します。(インド・ネパールの援助方法等についての詳細は同窓会本部までおたずね下さい。)

尚、今年の大学祭バザーには、ぜひ多くの方々のお越しをお待ちしております。

◎記念例会

二期卒業三十周年記念例会

「二期生三十周年の集い」ということで、昨年六月二十二日、京都「梅むら」でシスター、先生方四名のご出席のもと関東、九州、四国、アメリカからと総勢七十名の参加で開催しました。ユニ



障害もすっかり出番を失くしてしまったことでしょう。次回は三十五周年に又、笑顔で再会出来ますことを期待して散会しました。

学年委員 栗原英子(2E上田)

浜本厚子(2E笠本)

十二期卒業

二十周年記念例会

去る平成八年十一月九日、京都駅横のルネッサンスビルのレストラン福幸にて、同期生三十四名の出席により、和気あいあいと、にぎやかに楽しい集まりを持つことが出来ました。昼食後、一人一人の近況をショートスピーチ



ソン会館の見学及び、故西岡敬子さんの墓参を事前に行いました。二十五周年に続き三十周年も大へんにぎやかで楽しいもので、二次会、三次会、宿泊先のホテルでと、何をしてもヤル時は、ヤル」の二期生の特徴がそのままあらわれたものでした。これじゃ更年期

にて伺い、夫々の生活の場に一所懸命に活躍されている様子に励まされ私も頑張らねばと勇気づけられました。解散後、地下鉄で北山まで行き、懐しのノートルダム女子大学校舎の見学をさせて頂きました。ユニソン会館をはじめとする近代的な建物には驚きましたが、玄関を中心とする旧校舎は二十年前の面影のままに私達を迎えてくれました。二〇〇一年には卒業二十五周年同期会を計画しております。

学年委員 中井恭子(12E塚本)

三期生の皆様へ

今年は私達三期生の卒業後三十年にあたります。十月に京都におきまして集いを計画しております。詳細は後日ご案内致しますので、どうぞふるって御参加下さい。

学年委員 三由博子(3E木本)

小亀肇子(3E杉本)

十三期生の皆様へ

五月十八日の総会で卒業二十周年をお祝いしましょう。総会後にティーパーティーを予定しています。お子さまが受験戦争の渦中にいらつしやる方、乳飲み子をかかえて寝不足の方、お仕事に奔走されている方、皆で懐かしい一時をすごしましょう。たくさんのお出席をお待ちしています。

学年委員 前田 裕子(13E勝馬)

中田由利子(13E小谷)

◎前学長送別会

私達卒業生は昨年十月十二日、大手術を終えられました後の水越学長とお逢いしました。多少おやつれになってはいましたが、以前とかわらず雄弁に御自分の病気をたんとお話しになるのをお聞きして、安心しました。

先生のお話の中で、興味深く拝聴したのは「手術室に運ばれたり、検査をされている間も、病院の設備に目がいったり、食事に目がいったり、普段は気付かない視点から、病院を見てしまう。」とおっしゃったことです。

医者として病気になるといふことは、自分の病状が全て分つてしまふなど、普通の人が病をえるのとは違った御苦労もあったことと思います。患者として、客観的に病院を眺める先生のお話は、ユーモアにあふれていて、とても新鮮な気がいたしました。これからお元気で活躍なさることを同窓生一同念じております。



細井崇子(31E)

◎ND日本文化研究会誕生!

皆様はじめまして!日本文化研究会です。私たちは、その名の通りもつと日本の文化・歴史・芸能その他を知ろうと九十六年十月に発足した新しいグループです。

皆さんは、少なくとも四年間は京都の大学に通われたわけですが、京都のことをご存知でしょうか?例えば観光案内をしていて、留学生の鋭い質問に、返答に窮したという経験はありませんか?京都には長い歴史があり、多くの社寺仏閣、伝統文化があります。これだけ豊富な材料がありながら、実際に語るとなると難しいものです。もともと京都、日本のことを知りたい!一人では難しい勉強も皆でやればできるのでは!そういう期待を背負って日本文化研究会は生まれました。

「マリアン」の呼

びかけで集まった一期生から三十一期生までの九名と、この会の趣旨に賛同して下さったシスター一名が集い、毎月一回勉強会を開いています。十一月には、第一回実地見学として西本願寺に行き、見学後には、各々が興味をもった事について調べて発表しあ



ました。同窓生ならではの幅広いメンバーで、毎回楽しく勉強&おしゃべりをしております。興味のある方は、連絡お待ちしております。

森口明美(31E)

◎四国の同窓生より

同窓生の皆様、今日は。私達、四国の卒業生は九十六年四月に香川県高松市で第一回の同窓会を開くことができました。関東や中部地区と較べると卒業生の数が少い地域ですが、四期から三十一期まで二十二名が昼食を共にしながら、学生時代の思い出話に花を咲かせました。

後で徳島の方から次のような感想が届きました。「……殆どの方が初対面でしたが、以前より知っていた様な親しみが有り、三時間という時間が短くて残念な位でした。同じ町内で親しく話をしていた方が、同窓生だったりとおどろきました。思いがけない出会いもありとても新鮮でした。」又、松山の道後で旅館をなさっている卒業生がおり、温泉に入つての同窓会もよいのでは、という声も出ております。

次回の集いに向けて、県単位で集るのもいいですね、という声もあり、大勢の出席者は期待できない四国地区ですが、続けることを大切に、ノートルダムの火を灯していきたいと願っています。

芝山陽子(5E)



中部支部だより

支部長 森本朗子 (2E栗本)

前役員の方々が任期を終えられ、支部長という名を頂いて数ヶ月が過ぎました。支部が発足して何年になるかも分からず、どちらかと言うと無関心だったり、リーダー的センスに乏しい私が支部長をお引き受けしたものの、少々荷が重く慌てている次第です。会員の皆様一人一人が、関心を持ち、要望、情報など積極的に申し出て下さる事を期待し、二年間を努めさせて頂こうと思っております。

さて支部活動ですが、毎年、春には芸術鑑賞、講演会といった文化的な催しから、食べ歩き、見学会など様々な行事が催されており、秋には支部総会が開かれます。その後の親睦会では、皆同じノートルダムで学んだと言う共通点から、年の差も意識せず、和気あいあいの楽しい一時が持たれています。又、支部発足以前から続けられていまます聖書研究会、年一回の機関紙「友」の発行等もしております。有志による手芸ボランティアも活躍し、楽しみながら、少しでも奉仕できる喜びを分かちあっております。

以上の様な活動ですが、会員の皆様が一人でも多く参加しようと思っ頂ける様、左記の四名で努力して行きます。

支部長 森本 朗子 (2E栗本)

副支部長 石田 章子 (3E溪)

会計 小林 久子 (5E鈴木)

書記 直江 いづみ (14C室谷)

北京世界女性会議に出席された

シスターセリオンを囲んで

杉浦木綿子 (4E永坂)

中部支部の活動の柱は、秋に開催される支部総会並びに同窓会ですが、毎年春にも、同窓生が集える様な催しを企画しています。これまでに、徳川美術館や愛知芸術センターでの美術鑑賞、陶芸教室、NHK見学、等々が催されました。又、二年前の阪神大震災の後には多治修道院のリチャード神父様を囲んで、危機管理についての話し合いの場を持ちました。この様に中部支部では、毎年趣向に富んだ集いの場が提供されています。

昨年六月十日には、一九九五年に開かれた北京世界女性会議に出席された、シスターセリオンのお話しをもとに共に考えようという集いを持ちました。

二期生から二十二期生まで幅広く十七名の参加者がありました。愛知、岐阜、三重からはもとより、静岡からも参加して下さい、主催者としては、うれしい限りでした。当日は講義のみの一方通行でなく、シスターを囲んでの話し合いの形で進められました。世界女性会議の歴史に始まり、北京での会議での呼びかけまでを、シスターの体験談を交え、スナップ写真を見せてくださりながら話して下さいました。

参加された皆さんからは次の様な意見感想が出されました。

○宗教家としてのシスターの視点でのお話が興味

深かった。○まちがいなく女性の社会になると確信した。○会場が広く、バスでの移動がうまくいかず、大がかりでびっくりしたと同時に、多々の不備が気になった。○日本女性は、権利に対する意識が低く、居心地の良さに、安住しすぎている。○踊りの表現にまで制限されている国があり、会議に参加して、始めて会場で踊ることの出来る喜びをかみしめた人々の存在を知り胸が詰まった。○興味深いお話が聞け良い話し合いの場が持てました。等々。また、フルタイムで働いておられる若い卒業生の方々が、「世界女性会議」という名前に興味を持ち、仕事をやりくりして、この集いに出席されました。そしてその後、他の支部活動にも参加されるようになり、会に若い息吹を送り込んで下さっておりますことを合わせてご報告いたします。



中部支部総会

関東支部だより

後藤礼子(10C伊藤)

毎年「マリアン」が手元に届きますといつしか二十数年前の学生時代にタイムスリップし、懐かしい思いで拝読しております。

関東地区にもマリアンハウスや同窓会クラスがあれば多数の卒業生が活用できるのにと残念に思っております。

さて、平成八年度、九年度の関東支部の運営は上期生が担当することになりました。昨年は各学年委員の顔合わせに始まり、新会員のお誘い、関東支部だよりの発行と、あつという間に一年が過ぎてしまいました。先輩役員のアドバイスを受けながら順調にすすみ感謝致しております。おかげさまで三百五十名を超える会員数となりました。

九年度は、十一月に関東支部同窓会を新横浜プリンスホテルで開催することを予定しております。その際は、各学年委員の皆様の御協力をいただいて、会員の相互の親睦をさらに深めたいと思っております。みなさまの御出席をお待ち申し上げます。

本年度の幹事は左記の通りです。

支部長 後藤 礼子(10C伊藤)

会計 佐藤留美子(10E井植)

“日本語講師” 御協力に感謝

ND修道女会地区長 Sr. ジュディス鎌田

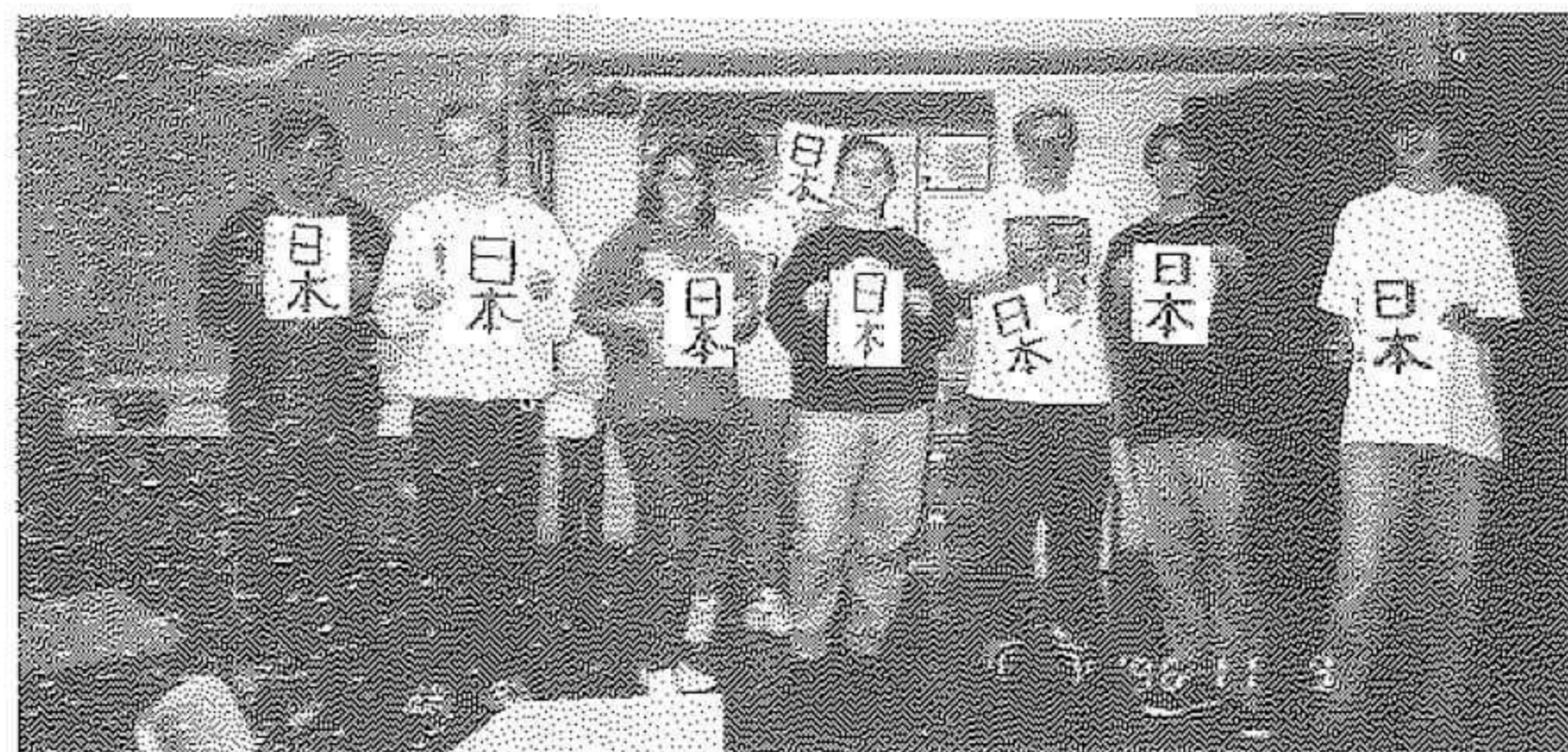
アメリカのウィスコンシン州、ミルウォーキー市にあるトーマスモア高校で日本からのシスターが日本語を教えていましたが、昨年任期を終えて帰国するにあたり、同校校長のSジーンより、ノートルダム関係で後任を推薦してもらえないかと依頼されました。同窓会にお声をかけていただきましたところ、早速九人もの方が熱心に応募して下さい、感動いたしました。この中から、今回は柴原みゆきさん(25回卒)にお願いすることになり、他の方々の熱意にお応えできなかったのは残念でしたが、時折このような呼びかけがありますので、次の機会にもぜひ応募していただきたいと思います。柴原さんが、現地で、チャレンジがある中にも楽しく元気に活躍して下さい、いることを知って大変うれしいです。同窓会の役員をはじめみなさまの御協力に感謝いたします。

同窓会の皆様へ

1996年12月5日

ミルウォーキーに来て早くも3ヶ月半が過ぎようとしています。来た頃に見た木々の緑や花に変わって真っ白い雪が辺りを覆っています。毎朝、完全防備で“こんな寒い日が3ヶ月程続くのか…”とため息まじりで学校に向かっています。先日は本当に耳がちぎれそうなくらい冷たい風が吹きました。でも学校に着くと生徒たちのPOWERにそんな寒さも吹っ飛んでいきます。日本語のクラスの生徒は2クラス合わせてわずか22名ですが、皆、とても日本に興味をもって、とてもやりがいがあります。言葉も文化も全く違うので何でも新鮮に思える様で好奇心旺盛にいろんなことを質問してくるので、授業が中断することも度々あります。

私はアメリカでの生活や仕事の上で、今でもわからないことがたくさんありすぎて、いつも戸惑っていますが、先生方もとても親切にして下さるので本当にうれしく思っています。



“なせばなる”の根性で、生徒たちに満足のいくクラスを作っていきたいと思っています。この経験が以前よりもっと私の視野を広げてくれている様に思います。

ここに来るために、サポートして下さった方々に心から感謝しています。

柴原みゆき(25E)

同窓会アクティビティーご案内

クラス	講 師	内 容	場 所・日 時	責 任 者
英文雑誌 の 講 読	シスター セリーン	タイム誌などによる現代問題等の 英文和訳と内容についての討論 (日本語で行われる)	マリアンハウス 第4月曜日 10:30~12:30 5月26日より開始	立花あかり子(9E)
聖 書	シスター セリーン	聖書を英語で読む	マリアンハウス 第4月曜日 13:00~15:00 5月26日より開始	宮井 順子(3E)
文学講読	シスター モーリングリンガー	文学作品についての講義と、内容 についての討論(英語で行われる)	マリアンハウス 第2・第4火曜日10:45~12:15 5月13日より開始	中田記美江(7E)
英 会 話	シスター ジョンシュミット	タイトルを決めてスピーチ、フリ ーカンパセーション、能力に関係 なく楽しく勉強できます	マリアンハウス 第1・第3木曜日10:30~12:00 5月15日より開始	池田 操子(16E) 清水 好美(18E)
書 道	寺田九糸	書道具持参	マリアンハウス 第1・第3水曜日10:30~12:00 5月14日より開始	林 満智子(3E)
仏 語	阿部哲三	能力に関係なく楽しい授業です	ND大学ユニソン会館 同窓会室(3階) 第1・第3火曜日10:30~12:00 5月6日より開始	家村 悦子(4E)

手芸ボランティア	手芸品製作(売り上げ金はインド ・ネパールへ寄付)	マリアンハウス 第1・第3金曜日10:00~14:00 5月16日より開始	井上 聖子(12E)
----------	------------------------------	---	------------

日本文化研究会	9ページ参照	マリアンハウス 第3月曜日 10:30~12:00	森 美都子(9E) 山本 純子(1E)
---------	--------	------------------------------	------------------------

マリアンハウス カルチャープログラム	'97年6月 10月 12月 その他	フラワーアレンジメント オープンディ・講演 ローソク作り 料理教室も計画中	詳細は マリアンハウス (075)701-9149 までお尋ね下さい
-----------------------	-----------------------------	--	---

＜中部支部＞

聖書クラス	シスター セリーン	聖書の読んだ箇所の各人の感想と シスターの解説	みこころセンター(052-971-0334) 地下鉄 桜通線、名城線 久屋 大通下車 (2番出口より北へ徒歩3分) 第2月曜日 10:30~12:30	加藤真理子(2E)
-------	--------------	----------------------------	---	-----------

※各クラス参加費は学期毎に1,000円。(但し聖書クラスは除く)

※各クラスプリントのみ御希望の方には、実費にてお送りいたします。

※御質問もしくはお申し込みは各責任者まで。

※新しいクラス開設について御希望がありましたらマリアンハウスまでお寄せ下さい。

“手芸ボランティアに 参加協力を”

辻 美智子(4E磯田)

手芸ボランティア活動を始めてから十年が経ちました。インド、ネパールの子供達への支援活動に協力させて頂いております。最近では作品も上達し、和気あいあいと楽しくいどんでいます。しかし、アイディアに悩み、手創りゆえ数に限りがあり、慌てることもあります。でも同窓会の数々の行事に展示販売の為、ディスプレイする時には、自分たちの小さな活動の成果の喜びを大きく感じ、また次へのステップにつながります。皆様のご協力に感謝しております。活動に参加出来なくても、ご自宅で手芸をして頂ける方、アイディア、手芸の材料(糸、布)の提供など少しでも活動に力をおかし下さいませ。尚、作品を平常でも、マリアンハウスに展示販売させて頂いております。是非、御覧下さいませ。



「倅せな縁」^{えにし}

——同窓生とのフランス語勉強会——

阿部哲三

Enseigner, c'est apprendre deux fois. (教えるとは、二度、習うこと)と謂うフランス語の箴言がある。私は教師を勤めてほぼ半世紀。ということは、この諺にしたがえば、私は五十年近く学生のままでいることになる。更に、奇妙な言い方になるが、この「二度」という語を時間の量に換算してとるならば、私は一世紀、フランス語を習って来たことになる。そして、これからも習い続けるであろう。

一方、職人はよく呟く、「ものに習え」と。これは、たとえば、彫り師は木や石に教わって彫り、風景画家は、光や風に導かれて画くがよい、と言っているであろう。同じ文脈で考えるなら、私のフランス語は、私に習う生徒のお陰で上達する、と言える。惟えば、教えるとは所詮、教えられるものから窺^{ひそ}かに習ったものを、形を変えて返すこととでしかないのかもしれない。こうした習う者と教える者との相依相待の關係にあつては、慥かに、其処には退屈も無ければ、焦躁感も無い。在るのはただ夏簾を通して涼を楽しむような爽やかさである。

私は、先き頃、偶々、八十七才のある女流歌人の「老いたりとして女は女、夏すだれ、そよろと風のごとく訪ひませ」という秀歌に出会い、目を瞠る思いをした。

このフランス語勉強会は、始めてはや二年になる。月二回、廿人ばかりの同窓生と楽しんでいる。

私は、いつまでも簾を通るそよ風のように教えそして習い続けたいと思っている。その倅せな縁^{えにし}に感謝しつつ。
(一九九七年一月)

「インドへ友愛の手を」

シスターポーラー岩城

「インドへ友愛の手を」は十七年前に発足したグループで、インドの若者が教育を通して自立することを目的としたものです。ご存知の方もたくさんいらっしゃると思いますが、ノートルダム教育修道女会のシスタージーンシュミッドと、インドのマリアの御心会のシスターパッツイカーンのお二人がホナワという地方ではじめられました。

その頃のホナワの村はとても貧しく、学齢に達している子供たちも働き手としてあてにされてい、学校には殆ど行っていないませんでした。この「インドへ友愛の手を」は、学齢期の子供のいる家庭を一軒一軒訪問し、子供たちを学校に行かせるように説得することからはじまりました。学校の授業料をはじめ、文房具類、衣服、傘、医薬品などの他に、ある程度の金銭的な援助も保護者と約束しました。このようにして子供たちは徐々に学校に行きはじめ、数年後には遠くの村から学校に来る子供たちの寄宿舎を含む福祉センターも建てられました。そこで識字教室や栄養指導、衛生指導の教室も開かれるようになりました。

現在ホナワの村では全戸に電気がつき、学齢期の子供たちは全員学校に通っています。また、援助をうけて教育を受けた子供たちが大きくなって高校や短大、時には大学を卒業し、村の幼稚園、

学校、センターで働いたり村のリーダーになったりしています。例えば十七年前、最初に援助をうけて小学校に行きはじめてメリーという子は、すでに福祉系の大学を卒業し、センターで働いています。が、今後、大学院に行きたいという希望を持っています。

その間に援助する地方も次々にふえ、今では十七地方におよんでいます。センターも六つ建てられました。特に最近新しく援助をはじめてザンクワという所では、イエズス会と女子の修道会が協力して、若者や女性の教育のために大がかりな組織作りをはじめました。私たちとしても、今後はこのような活動を深めていきたいと思っています。そのためにもまだまだ皆さま方のご援助を必要としています。どうぞよろしくお願いいたします。

○援助の方法 年間二四、〇〇〇円。

○送金方法 郵便振替

○口座番号 〇一〇三〇一二一三四八八九

シスタージーンシュミッド

○連絡 先 京都市左京区松ヶ崎今海道町

一一一 ノートルダム修道院内

事務局 火・水・金曜日十時～三時半

電話 〇七五―七〇一―七二二八(永島)



マリアンハウス管理運営委員会報告

マリアンハウス管理運営委員会が発足して以来四年が過ぎました。この間、八名の委員から成る当委員会は、同窓会ハウスをできるだけ多くの会員の皆様に、様々な形で御利用いただける様に検討しながら運営して参りました。今回は、これまでの活動を報告すると共に今後の当委員会のあり方や、活動について、皆様のご意見を広くお聞きする機会にさせていただきたいと思ひます。

まず最初の仕事は、マリアンハウスの設備や備品を建築時の寄付金で調達することでした。これは今後も状況に応じて設備を補強・充実させ、備品等も設備することになると思ひます。次に、マリアンハウスの使用規則を定め、これまでマリアン紙上に毎回主要規則を掲載して参りました。すでに多くの会員の方々が御利用になっていますが、遠方の方も宿泊などの形で存分に御利用下さい。企画の面では、毎年秋に、オープンハウスで、バザー（手芸ボランティアによる）や講演（水越前学長、同時通訳講師の所明子さん、現シンガポール大使夫人の内田眞美子さん）を催しました。又昨年は、カルチャープログラムとして、ヨガ、クリスマスのローソク作り、料理講習などの一日教室を開きました。今後もこのようなプログラムを企画する予定をしていますので、良いアイディアがありましたら、お知らせ下さい。又、同窓生で、色々な資格や才能をお持ちの方は、自薦他薦を問わず、お申し出下されば幸いです。

このように管理運営委員会は、皆様の大切な同窓会ハウスを安全に維持し、快適に御利用いただけますように、同窓会の本部活動の一部門として任務を果たすよう努力しております。

以上簡単に報告いたしました。御意見御質問がありましたら、御遠慮なくお聞かせ下さい。

中島克子（1E長谷川）

会計報告（平成8年2月1日～9年1月31日）

収入：前年度繰り越し	4,663,869	支出：設備備品費	312,207
同窓会本部	2,000,000	NHK	27,000
寄付金	10,000	水道光熱費	216,100
利息	3,479	通信費	104,615
宿泊費	123,000	保険料	103,500
雑収入	15,500	施設管理費	1,132,816
	6,815,848	会議費	58,800
		文具消耗品費	51,500
		イベント費	204,817
		雑費	69,218
		次年度繰り越し	4,535,275
			6,815,848

使用出来る日時

月、水、金の十時am～三時pm
但し、右記の日時以外でも相談に応じます。

休館日

三月二十日～四月十日
八月十日～八月二十日
十二月二十日～一月十日

使用料（冷暖房費込み、台所使用可）

10:00am～3:00pm	
二階和室 八畳	一、五〇〇円
二階和室 六畳	一、五〇〇円
二階洋室	一、五〇〇円
一階ホール	三、〇〇〇円

宿泊について（冷暖房付、台所・浴室使用可）

宿泊料 一泊一名 三、五〇〇円

収容人数 十名

チェックイン 三時pm～五時pm

チェックアウト 十時amまで

申し込み方法

二週間前までにマリアンハウスに電話あるいはFAXでお申し込み下さい。

キャンセルは五日前までにご連絡下さい。それ以後のキャンセルは費用の50%を頂きます。

マリアンハウス

〒606 京都市左京区岩倉幡枝町六二八

電話番号 〇七五（七〇一）九一四九

FAX 〇七五（七〇一）九一四九

宿泊御案内

マリアンハウスが宿泊施設として開放されてから二年余りが経ち、数多くの同窓生が利用して下さっています。どの方も、楽しい同窓会やクラス会の後、その余韻を漂わせ、このハウスに米られタイム・カプセルに乗り懐かしい青春時代に戻っていらっしゃいます。ハウスで過ごされた方は皆、口を揃え、「素敵！ アットホームな雰囲気、の漂うハウスで本当に楽しいひとときでした。是非、是非又泊りたい。」と感想を寄せて下さっています。

単なる安い宿泊場所でなく、楽しく学生時代のクラスが再現（調理も出来ますし、クラスだって開けます。）出来ることも、皆様には大好評です。夕日がステンドグラスに映え、一段と美しい、心落ちつくこのハウスでのひとときが、皆様の心に、温かい豊かな思い出として残りますようにと願っております。

林満智子（3E寺田）

オープンハウス

十月二十六日、マリアンハウス恒例のオープンハウスが催されました。今回もボランティアの方々による手作りの手芸品バザーや習字の作品展が開かれました。

メインイベントの講演は、「外交官夫人よもやま話」と題し、第一期卒業生の内田眞美子さんが華麗なる外交官夫人の生活の様子をバラエティーに富んだ内容で楽しく話して下さいました。内田さんは現在シンガポール大使夫人として活躍しておられます。かつて、インドにおられた時には、インディラ・ガンジー首相が内田さんの盆景をご覧になって大変感動され、新聞紙上でも写真入りで大きく報道されたそうです。国際社会で活躍するためには、自国の伝統文化をしっかりと身につけている事がいかに大切か、また役に立つかというお話に大変刺激を受けました。

久萬田澄子（1E沢田）

ヨーガ

マリアンハウスで、本年度初めてのカルチャー教室は、六月二十六日にマリアンハウスのある町内におられる尾寄栄子先生の御指導で、ヨーガが行われました。ヨーガは古代から伝わるインドの宗教的実践の方法で、精神を統一し、物質の束縛から解脱をはかるものです。息を吸って吐いての腹式呼吸で、酸素を体のすみずみまで送り、筋肉をほぐし、続けるとこりもなくなり、固い体も少しは柔らかくなるとのことです。

もっと持続性があつたらとか、音楽があつた方がよかつたとかの御意見もありましたが、十数名の参加者は、約一時間健康的な汗を流し、気持ち良い時をすごしました。

伊吹佳子（5E松本）

キャンドル造り

十二月十八日（水）午前十時から、大村南都子講師によるキャンドル造りのクラスがおこなわれました。

十数名が初めてのろうそく造りに、興奮し、慣れない手付きながらも、クリスマス前にファンタジックなキャンドルが出来上がって子供のようにはしゃいでしまいました。

好きな色のキャンドルを造らせてもらい、金粉や銀粉をまぶし付け、独自の手作りならではの出来上がり、全員満足して、家庭への大自慢の作品を持ち帰りました。クリスマス前の企画として、時期的にもタイムリーな行事だったと、今から「今年も!!」の声がすでに出ています。

高山敦子（4E和泉）

料理教室

二月十二日、NHKテレビ等各方面でご活躍中の広瀬まり先生を講師に迎え、今回はフランス料理を教えて頂きました。出席者は十四名で、調理法を見せていただき、その後楽しく試食させて頂きました。

久萬田澄子（1E沢田）



平成七年度 会計報告

自..平成7年4月1日
至..平成8年3月31日

収入の部		支出の部		
科目	決算額	科目	予算額	決算額
前年度繰越金	21,901,070	総会費	600,000	432,471
終身会費	9,015,000	マリアンスカラシップ	1,000,000	1,343,000
資産運用益	331,255	マリアン発行費(送料含む)	1,500,000	1,302,320
マリアンスカラシップ返済金	125,000	卒業記念品費	500,000	471,225
クラスアクティビティ参加費	96,100	クラスアクティビティ	1,000,000	920,000
名簿代金	2,950,720	支部活動費	300,000	300,000
		交通費	150,000	80,000
		会議費	500,000	435,092
		交際費	200,000	191,628
		通信費	200,000	70,893
		事務費	200,000	151,467
		マリアンハウス運営費	2,000,000	2,000,000
		名簿発行費(送料含む)	6,500,000	6,461,035
		小計	14,650,000	14,159,131
		次年度繰越金		20,260,014
合計	34,419,145	合計		34,419,145

平成八年度 活動報告

- 五月
- 第三十二回総会(於都ホテル)
 - 総会終了後関東、中部支部委員との合同懇談会
 - 手芸ボランティア活動開始
 - 各種クラス春期開始(五月開始)
- 六月
- アメリカ姉妹校三校短期留学生週末ホームステイ受入れ
 - 大学主催ウェルカムパーティー出席
 - ヨーガ講習会(マリアンハウス)
- 九月
- 学年委員会
- 十月
- 各種クラス秋期開始
 - 水越学長同窓会名誉顧問退任「感謝の会」
 - マリアンハウスオープンデー
 - (講演、ボランティア作品展示販売)
 - 中部支部総会(出席)
- 十一月
- 大学祭参加ミニバザー開催
 - 大学関係物故者合同追悼ミサ参加
 - CIEE短期留學学生ホームステイ受入れ
 - ウェルカムパーティー出席
- 十二月
- 各種クラス合同クリスマスパーティー開催
 - ローソク作り講習会(マリアンハウス)
- 一月
- 各種クラス冬期開始

- 二月
- 料理講習会(マリアンハウス)
- 三月
- 同窓会新入会員への説明会
 - 平成八年度会計決算報告書作成
 - 第三十三回大学卒業式参列
- 四月
- 平成九年度大学入学式参列
 - 平成九年度予算書作成
 - 「マリアン」第二十七号発行
 - 総会準備
 - 役員会 通算十五回

おくやみ

左記の方がお亡くなりになりました。
御冥福を心からお祈り申し上げます。
11C-41 渡辺敦子様 帰天'96・9・29

編集後記

深泥ヶ池の美しさに圧倒されながら二年間、マリアンハウスに通いました。Sr.セリーンの「爽やかな笑顔を」には、私達のことを見ていてくださったのねと感激していると、一人の役員が「御主人と子どものことかもしれないわね。忍耐強いのは。」とぽつり。新役員を先輩たちに譲り、若輩者は去っていきます。ありがとうございました。

広報委員 西村 寛子(11E大鳥)

中田由利子(13E小谷)

表題はSr.セリーンにお願いいたしました。